

# 安定的な利用を目指したアサリ資源回復技術の研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成28～30年度)

担当：水産技術研究所浜名湖分場 上原 陽平

## 【研究の背景とねらい】

浜名湖のアサリ漁業は重要な地域産業となっていますが、漁獲量は平成25年に過去最低を記録するなど、近年は不安定な状況にあり、採貝漁業者の資源の安定的な利用に対する思いは強いものとなっています。また、平成28年は資源の減少を背景に、観光渡船潮干狩りが中止になるなど地域経済への大きな影響が出ることが予想されます。

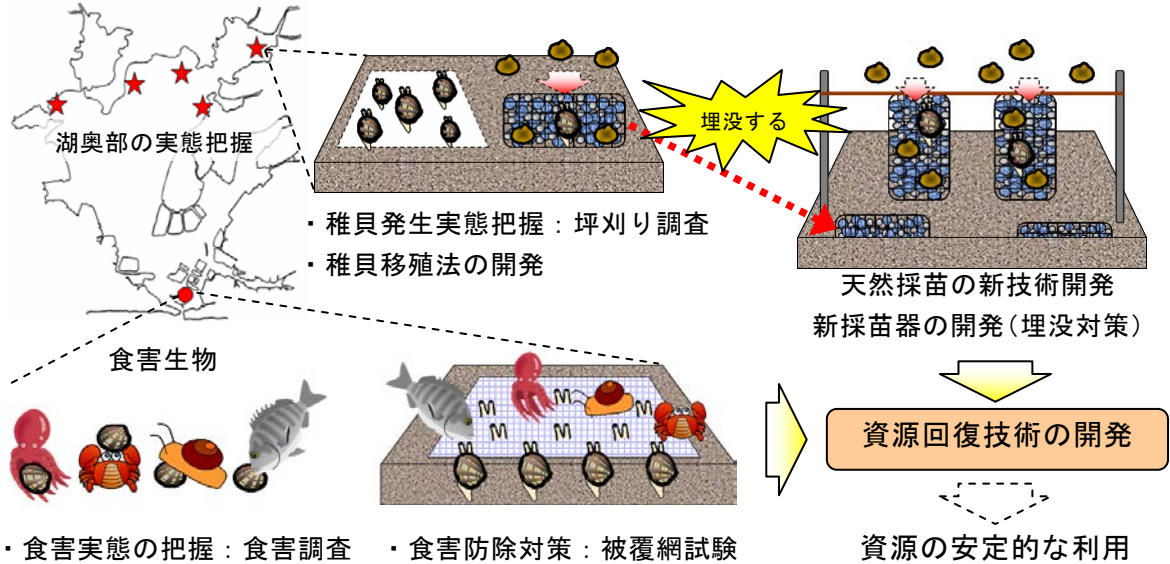
資源減少要因の一つとして、クロダイなどによる食害が漁業者から報告されており、その対策が急務となっています。

漁業者は、資源を安定的に利用するため、漁獲量を制限するほか、アサリを増やすため、天然採苗など新たな取組を開始しました。しかし、採苗器が埋没するなど、定期的な管理への負担が大きいことなどが課題となっています。また、湖奥部では大量の稚貝が発生するため、資源の有効利用として禁漁区などへ移殖が行われています。しかし、近年では、十分な稚貝の発生が確認されていないことから、その実態を把握し、対応を検討する必要があります。

本研究では、アサリ資源の回復策として、食害対策や効率の良い天然採苗技術を開発し、アサリ資源の安定的な利用を目指します。

## 【期待される効果】

- ・ 食害対策、埋没しない新採苗器の導入及び稚貝発生の実態に合わせた移殖を行うことにより、資源の安定的な利用に繋がります。
- ・ 安定的な漁業経営や、地域経済へ寄与することが期待されます。



## 【年次計画】

研究項目	検討内容	H28	H29	H30
1 食害防除技術の開発	食害実態の把握（食害調査）	○	○	○
	食害防除対策（被覆網試験）		○	○
2 天然採苗の新技术開発	新採苗器の開発（埋没対策）	○	○	○
3 稚貝の有効利用技術の開発	湖奥部の稚貝発生実態の把握（坪刈り調査）	○	○	○
	稚貝移殖法の開発（採苗器による移殖）	○	○	○

(作成 平成28年4月)